

意思伝達装置を中心とした コミュニケーション機器の紹介

～在宅生活に向けてニーズに応じた導入～

本日の内容

- はじめに：拡大代替コミュニケーションとは
- 意思伝達装置の紹介
- 携帯用会話補助装置の紹介
- iosの活用紹介
- 症例紹介

拡大代替コミュニケーション（AAC）とは

話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどのコミュニケーションに障がいのある人が、残存能力とテクノロジーの活用によって、自分の意思を相手に伝える技法

拡大代替コミュニケーション(AAC)

ノンテク

- 筆談
- 文字盤 など

コミュニケーション技法

ローテク

- 指さし
- ジェスチャー
- YES/NOサイン
- 読唇

など

コミュニケーション技法

ハイテク

- パソコン
 - スマートフォン
 - タブレット
 - 意思伝達装置 など
-

コミュニケーション技法

本日の内容

- はじめに：拡大代替コミュニケーションとは
- 意思伝達装置の紹介
- 携帯用会話補助装置の紹介
- iosの活用紹介
- 症例紹介

意思伝達装置

* 給付制度の詳細は各自治体により異なります

・ファインチャット (旧：レッツチャット)

・伝の心

・TCスキャン

・miyasuku

・オペレートナビ

・OreHime

・話想

・eeyes

・マイトビー (特例補装具)

・MCTOS

・新心語り

・Cyin®

など

その他

・ハーティラダー

* 技術は日々進化しています。情報は変わる可能性があります。

ファインチャット (アクセスエール株式会社)

- 業界唯一の専用機
- 起動も終了も早い。誰でも簡単に使える。
- 連動機能が内蔵しているなので、外部機器とも繋ぐこともできる。
- 家庭用コンセント、乾電池、モバイルバッテリーの3電源方式。小型軽量で持ち運びやすい。



伝の心 (株式会社日立イーケーシステムズ)



- 1997年に発売
- 給付制度利用機器の中では約70%のシェアがあったほど普及した機器
- 支援者やノウハウの蓄積も多く、Q&Aやサポート体制も比較的整っている
- 基本、横文字はあまり使わない
- 視線入力対応、LINE機能



コマンド

TCスキャン（株式会社クレアクト）

- ・視線センサーを作っている会社で作ったソフトウェアを使用
- ・シンボルを使って視覚的にわかりやすい作り
- ・クレアクト福祉機器YouTubeチャンネル
- ・LINEの専用画面



Miyasuku (株式会社ユニコーン)

- 様々な設定が非常に細かく調整できる。その人にあったカスタマイズができる。
- Facebook「miyasuku EyeCon 何でも相談室」で様々な相談に対応
- 視線入力対応
- マイボイス *その他 : OreHime
- コエステーション *その他 : OreHime、eeyes、伝の心



本日の内容

- はじめに：拡大代替コミュニケーションとは
- 意思伝達装置の紹介
- 携帯用会話補助装置の紹介
- iosの活用紹介
- 症例紹介

携帯用会話補助装置

「ペチャラ」

Pacific Supply



「トーキングエイド」



* スイッチ操作、アプリ

* 給付制度の詳細は各自治体により異なります

本日の内容

- はじめに：拡大代替コミュニケーションとは
- 意思伝達装置の紹介
- 携帯用会話補助装置の紹介
- iosの活用紹介
- 症例紹介

iosの活用紹介

iPhoneやiPadのアクセシビリティ機能を活用して

1. スイッチで操作

2. タッチミスを減らす

3. TDパイロット iPad版視線入力

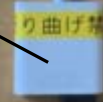


iPad

カメラアダプタ

スイッチ
インターフェース

ICT救助隊



スイッチ



設定方法

1. スイッチで操作



実際場面

1.スイッチで操作

iosの活用紹介

iPhoneやiPadのアクセシビリティ機能を活用して

1. スイッチで操作

2. ミスタッチを減らす

3. TDパイロット iPad版視線入力



設定方法

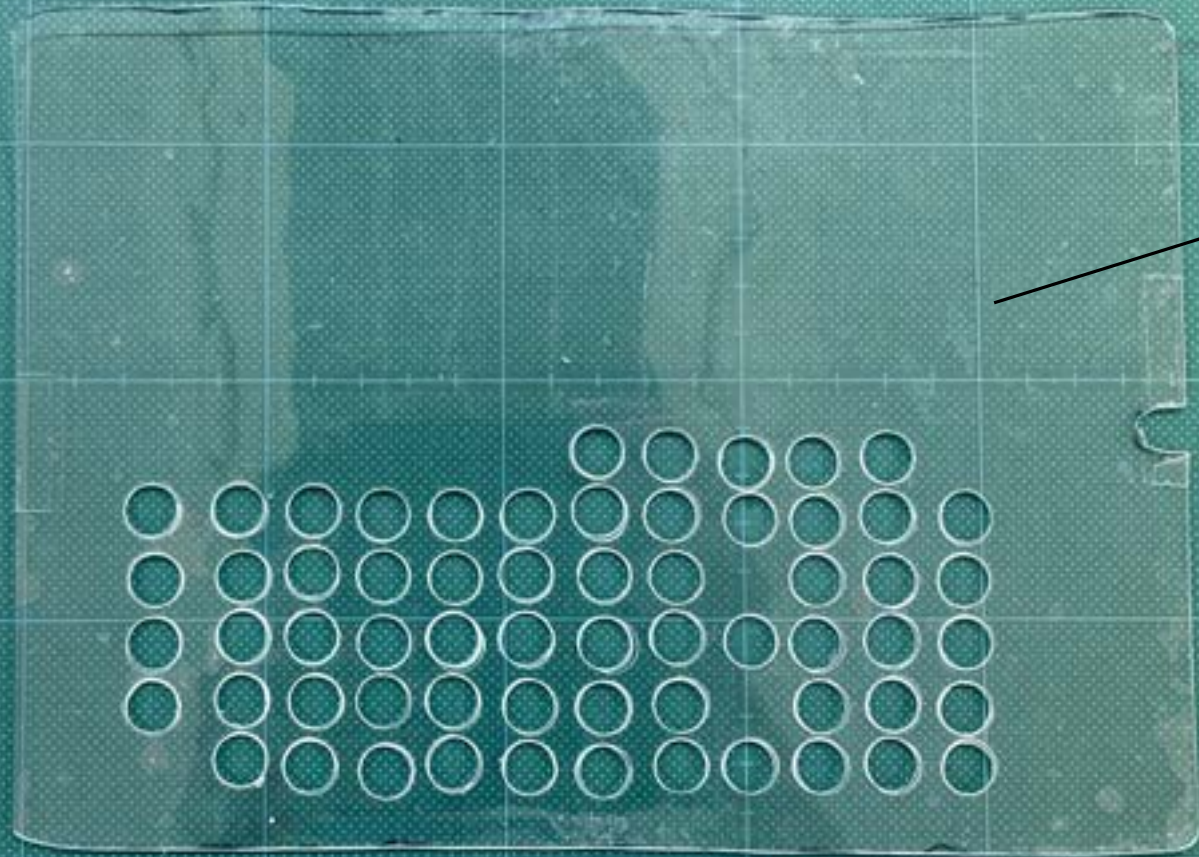
2.ミスタッチを減らす



実際場面

2. ミスタッチを減らす

穴あけポンチ
11mm



ソフト下敷き
2枚

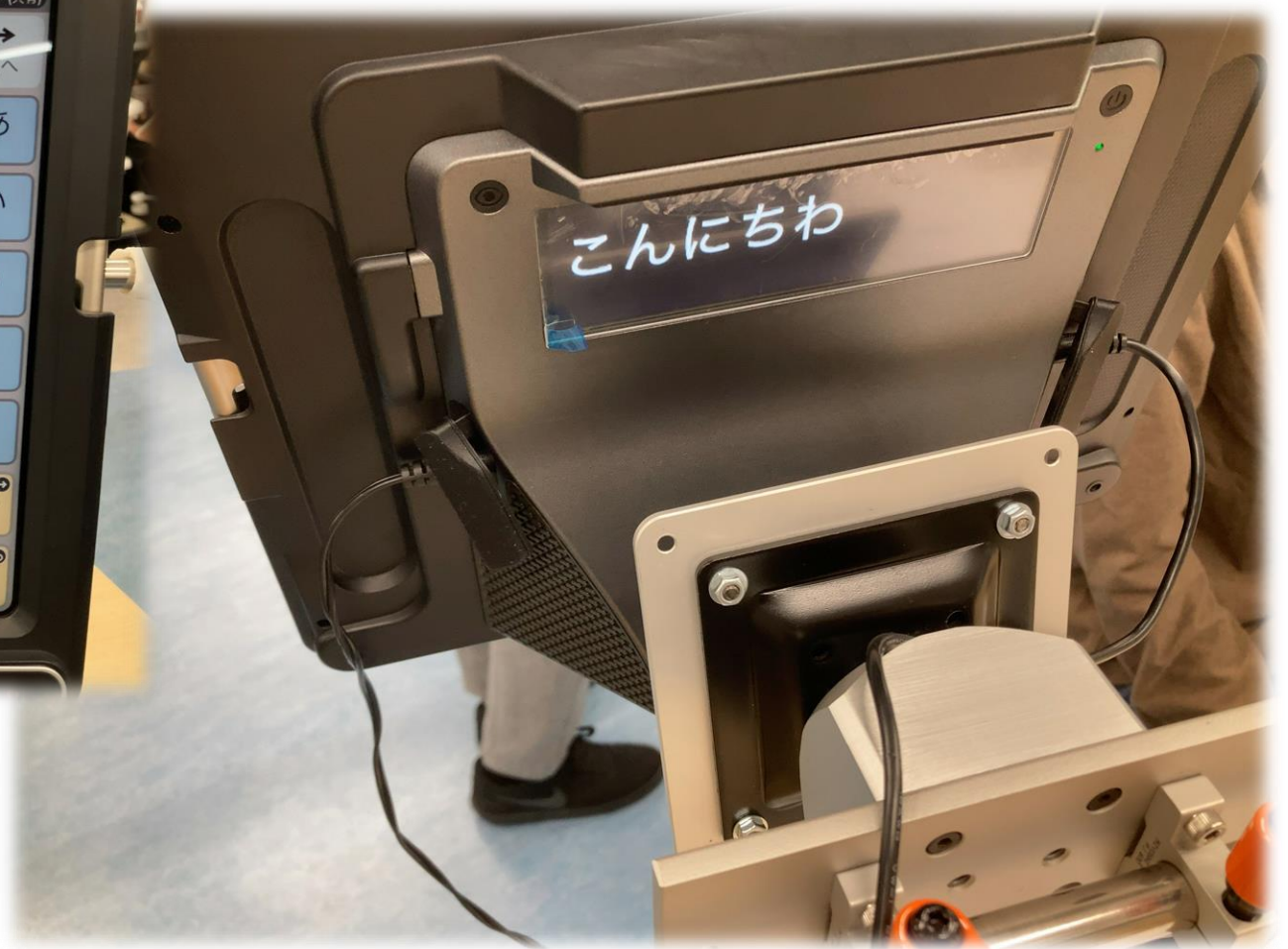
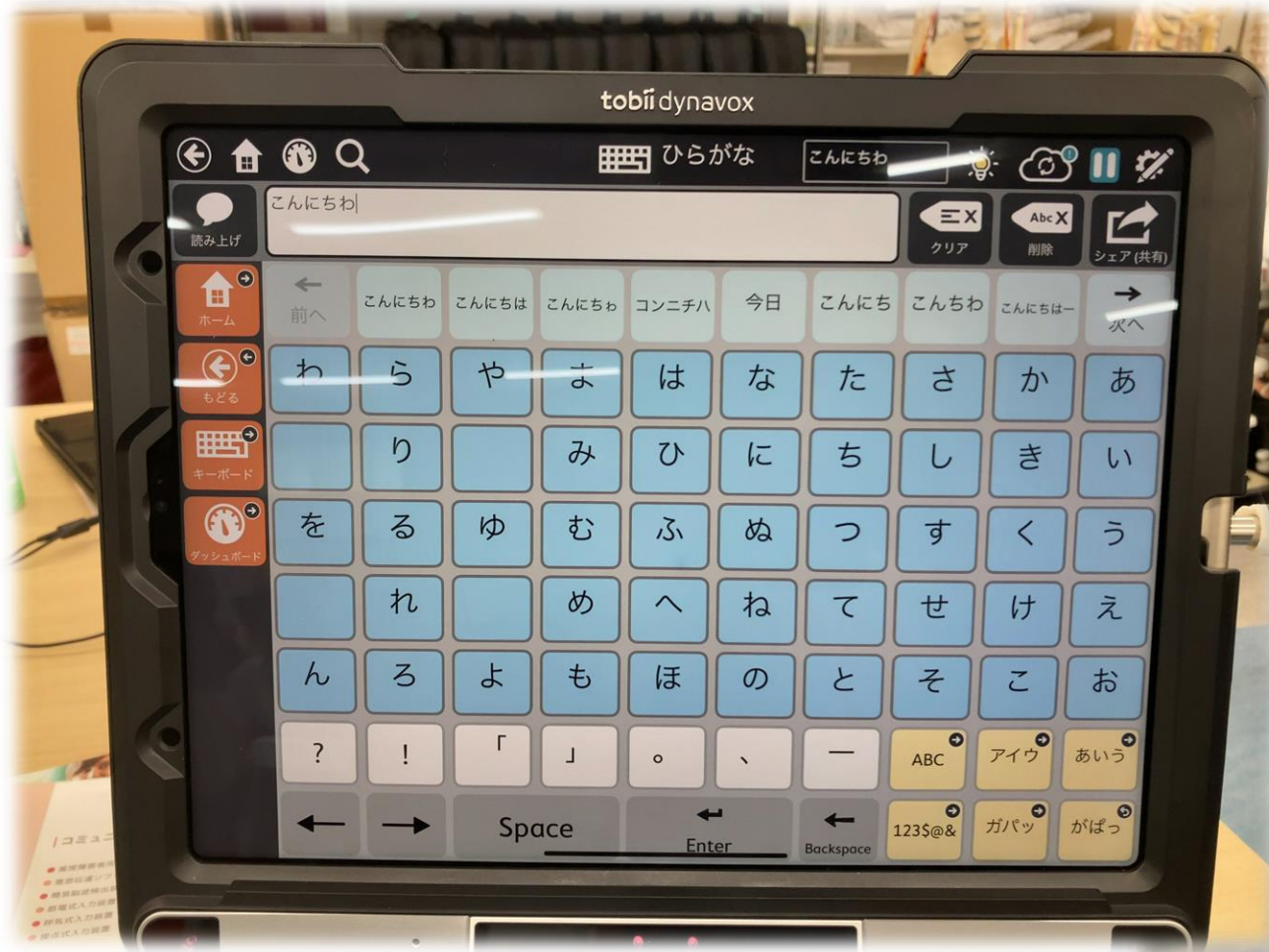
iosの活用紹介

iPhoneやiPadのアクセシビリティ機能を活用して

1. スイッチで操作

2. タッチミスを減らす

3. TDパイロット ipad版視線入力



本日の内容

- はじめに：拡大代替コミュニケーションとは
- 意思伝達装置の紹介
- 携帯用会話補助装置の紹介
- iosの活用紹介
- 症例紹介

導入

- ▶ 導入は早い段階の方が有利ではある
- ▶ 思いや気持ちを傾聴
- ▶ 支援者が誰なのか

導入

- ▶ 残存能力：右母指橈尺内外転、足関節底背屈、頸部屈曲一回旋、
表情筋、眼輪筋
- ▶ コミュニケーション：音声言語が可能、友人との会話、LINEを使う
パソコン経験あり、携帯電話はSiriを使用
- ▶ デマンド（要求）：LINE、ベッドコントロール（アプリ）が自分でしたい
- ▶ 精神状態：丁寧に話され、理解もあり、落ち着いている印象

訓練内容

1. YES/NOサインの決定
2. 文字盤の練習
3. ニード盤の作成と練習
4. 意思伝達装置の練習（スイッチ、視線入力）
5. iPhoneをスイッチで操作



術後

- ▶ コミュニケーション

読唇（口パク）やアイコンタクト、表情がメイン
補助的に意思伝達装置を使用

- ▶ 日中はiPhoneをスイッチで操作

ラジオを聴く、LINE、銀行管理、ネットショッピング

S：「スイッチ」を使うことでできることが増えた



退院時

▶ コミュニケーション

読唇（ロパク）やアイコンタクト、表情は変わらず

補助的にiPadを

万が一の意思伝達装置



退院時

▶ A氏

iPadの方が使い勝手が良い

ベッドコントロールが自分でしたい

* アプリがiosでしか動かせない

▶ セラピスト

意思伝達装置の方が安定している



最後に

選択肢があることは、A氏にとってQOL向上に繋がったのではないかと考える。

喪失体験が多い中で、

どう生きるかを一緒に考えていく必要がある。

ご清聴ありがとうございました。